

予 算 要 求 資 料

令和3年度当初予算 支出科目 款：総務費 項：防災費 目：防災総務費

事業名 広域物資輸送訓練事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

危機管理部 防災課 地域支援係 電話番号：058-272-1111 (内 2746)

E-mail：c11115@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,760 千円 (前年度予算額：2,200 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	2,200	0	0	0	0	0	0	0	2,200
要求額	1,760	0	0	0	0	0	0	0	1,760
決定額	1,760	0	0	0	0	0	0	0	1,760

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

県では、国が地方自治体のニーズと関係なく、大規模災害時に実施する「プッシュ型」の物資支援に対応するため、平成30年3月に「岐阜県災害時広域受援計画」を改訂。また、「岐阜県広域物資輸送拠点物資集積・輸送マニュアル(案)」を新たに作成するとともに、平成30年度より広域物資輸送拠点において、荷下ろし・仕分けを行うための非常用電源設備やフォークリフト等を順次整備しているところであり、災害発生時における拠点運用の実効性を高めるためには、マニュアル(案)を随時見直ししながら更新していく仕組みづくりと、フォークリフト等、作業に従事する職員の習熟度を高める取り組みが必要となっている。

(2) 事業内容

広域物資輸送拠点として指定されている9施設について、平成30年度より広域物資輸送拠点施設等整備事業にてフォークリフトやハンドリフト、非常用電源の整備を実施しているところであり、整備が完了した拠点において、物資の輸送訓練を行い、拠点運営及び実機操作を行う職員の技術の向上を図

る。

また、各拠点で行う訓練の結果を集積し、物資のレイアウト、運営・作業に必要な人数、各団体との協定内容等について検証を行い、マニュアル(案)の見直しや必要な施設の整備を実施し、実効性の向上を図る。

訓練実施の際は、「ラストワンマイル問題」の解消に向けた手法を市町村と一緒に考えているための研修会を合わせて行うことを検討する。

①広域物資輸送拠点における訓練の実施

【令和元年度】

まきがね公園、飛騨・世界生活文化センター、青協建設株式会社本社

【令和2年度】

メモリアルセンター、セラミックパーク MINO

【令和3年度】

ソフトピアジャパン

以降、年間1～2施設にて継続実施。

※ 国際たくみアカデミーは、平成30年度にパイロット的に先行実施。

(3) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
委託費	1,060	訓練実施業務の委託
旅費	200	他県事例の情報収集に係る旅費、研修会の講師旅費
報償費	20	研修会の講師謝金
消耗品費	50	梱包用フィルム等
燃料費	30	公用車燃料代
役務費	100	訓練荷物配送代
使用料	300	訓練会場の使用料
合計	1,760	

決定額の考え方

事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

県広域物資輸送拠点における訓練を実施及びマニュアル等を見直し、南海トラフ巨大地震といった「超」大規模災害の発生時においても、川上から川下までにいきわたる「災害に強い物流システムの構築」を目指す。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業 開始前	指標の推移		現在値 <small>(前々年度末時点)</small>	目 標	達成率
県広域物資輸送拠点 における訓練の実施	7施設 (H29)	9施設 (R1)	— (H)	4施設 (R1)	全拠点 で訓練	44.4%

○指標を設定することができない場合の理由

--

（前年度の取組）

岐阜メモリアルセンター、セラミックパーク MINO の2箇所にて広域物資輸送訓練を実施した。

（前年度の成果）

訓練を実施することで、拠点運営の実効性の向上及び課題を抽出することができた。

岐阜メモリアルセンターでは県総合防災訓練の実動訓練として実施した。また、セラミックパーク MINO でも訓練を実施した。

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性（社会経済情勢等に沿った事業か、県の関与は妥当か） ○：必要性が高い △：必要性が低い 	
(評価) ○	大規模災害時における円滑な物資輸送を実現するため、訓練を実施し実効性の高い体制を整える必要がある。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） ○：概ね期待どおりまたはそれ以上の成果が得られている △：まだ期待どおりの成果が得られていない 	
(評価) ○	訓練の実施により期待どおりの効果をあげている。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） ○：効率化は図られている △：向上の余地がある 	
(評価) ○	前回の訓練での課題を教訓にし、次につなげることで効率的に実施できている。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項 拠点運用のため、訓練にて抽出された資機材不足や人員の確保等の諸課題を早急に解消する必要がある。また、継続的に訓練を実施し、拠点運用要員の技術を一定に保つ必要がある。
--

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 毎年継続的に訓練を実施し、マニュアル等の随時見直しや従事する職員の技術レベルを確保する。また訓練によって明らかになった必要な資機材を整備することにより、実効性の高い体制を整える。
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせる理由や期待する効果 など	

